

夜回り

山田先生

西陵商ラグビー部元監督

9



▼山田耕二(やまだ・こうじ) 名古屋市出身の73歳。元ラグビー日本代表。西陵商(現西陵)監督として1997年、全国高校大会で愛知県勢初優勝に導く。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務める。

「あいさつ競争」実を結ぶ 「うちの子をぜひ西陵商に」

内の高校で就職率トップレベルに躍り出た。

「うちの子をぜひ西陵商に行かせたい」。そう言ってくるださる中学校の先生や保護者も年々増えた。私の指導をあまりよく思わない先生方にも、結果を伴って反論することができた。

あいさつ一つで印象は変わる。ちょっとしたことでも自分の社会的価値が大きく変わってくる。高校生活は人生の大きな差を生む3年間。ラグビーや他の部活で身につけた「社会性」は大きな役割を果たすと信じている。

指導方針が校内で反発を招くこともあった。一つが、頭を下げ、きちんとあいさつすること。一部の先生方からは「下手に出て相手を持ち上げる。人間平等の原則の否定では」と批判された。

指導方針が校内で反発を招くだけでなく、正門の近くで練習するバレー部やバトン部、ダンス部などの主将らに「どの部活が来校者に対して一番あいさつができるか勝負してみろ」とけしかけてみたのだ。

持たせると、生徒たちは面白そうに取り組み始めた。次第に体育館などで活動するバスケットボール部や器械体操部などにも広まり、来校者に対しての「こんにちは」のあいさつが学校中に響き渡るようになるまで、そう時間はかからなかった。

ほとんどなくして、推薦入試や就職関係の打ち合わせで来校される大学や企業の関係者たちの間で、「西陵商はあいさつがよくて気持ちがいい」と評判になった。「ぜひ多くの生徒さんにうちに来てもらいたい」と言ってきたる企業の方が増え、西陵商は愛知県

校内に響き渡る「こんにちは」